

# ちびっ子鬼物語 「三毛（みけ）猫のゴソとお別れ」の巻

※登場人物

- ① トシちゃん(笑鬼小学校の四年生です。)
- ② ヌウちゃん(トシちゃんの弟で笑鬼小学校の一年生です。)
- ③ お母さん(明るくて話し好きです。)
- ④ 近所に住むトシちゃん、ユウちゃんのお婆ちゃん(孫が大好きなお婆ちゃんです。)
- ⑤ 近所に住むトシちゃん、ユウちゃんのお爺ちゃん(孫が大好きなお爺ちゃんです。)
- ⑥ 三毛猫の「ゴソ」(お婆ちゃんがお友達からもらったメスです。優しく賢い十三歳の猫です。)

「今回の物語は、近所に住むトシちゃんとユウちゃんのお爺ちゃんお婆ちゃんが、長い間可愛がっていた三毛猫の「ゴソ」とお別れをするお話です。・・・読んでみてください。」

「お婆ちゃんは毎朝五時に、お爺ちゃんを起ささないようにそっと起きます。その時お婆ちゃんの近くで寝ていた「ゴソ」はお婆ちゃんが起きたことに気付くのでした。そしてお婆ちゃんの足下に自分の身体をこすりつけるのでした。・・・ニャオー。お婆ちゃんは朝ご飯の支度で台所に。「ゴソ」は朝の散歩に出かけるのでした。」



▼ 近所に住むトシちゃん、ユウちゃんのお婆ちゃん(以降は、お婆ちゃんと書きます。)

朝ご飯はお米と大麦を少々入れて、お爺ちゃんと私(お婆ちゃん)と「ゴソ」の分を釜に入れて炊きます。味噌汁の具は豆腐とホウレン草にします。それから塩鮭の切り身を二切れ焼いて。大根の漬物も添えます。・・・

「朝の六時になるとお爺ちゃんが起きてきます。「ゴソ」はお爺ちゃんが起きるより一足早く散歩から帰り、お婆ちゃんのそばを離れません。ニャオー。・・・」

▼ 近所に住むトシちゃん、ユウちゃんのお爺ちゃん(以降は、お爺ちゃんと書きます。)

お婆ちゃん おはよう。おはよう。ニャオー。(「ゴソ」のおはようの声。)

「お爺ちゃんとお婆ちゃんは、毎朝梅干しを食べながら緑茶を飲むのでした。「ゴソ」はお婆ちゃんの隣で小皿の水を飲むのでした。」

▼ お婆ちゃん お茶も飲んだし。さあ、ご飯にしましょっか。

▼ お爺ちゃん いただきます。ニャーン(「ゴソ」のいただきますの声。)

「お爺ちゃんとお婆ちゃんは、朝ご飯を食べ始めるのでした。「ゴソ」には今朝炊いたご飯の上に焼いた塩鮭を少々と、削り節を多めに乗せます。「ゴソ」の大好きな朝ご飯なのです。・・・」

▼ お爺ちゃん 美味しかった。「ちそうさま。・・・ちそうさま。ニャオー」(「ゴソ」の「ちそうさま」の声。)

▼ お婆ちゃん お爺ちゃん一休みしたら畑に行きましょうか。

▼ お爺ちゃん 日中は暑くなるから、朝のうちに収穫に行くとしよう。・・・

「お爺ちゃんとお婆ちゃんは、家(うち)の南側にある畑に行くのでした。そして良く実ったトウモロコシ、キュウリ、トマト、ナスを収穫するのでした。・・・そしてお爺ちゃんとお婆ちゃんが畑に行っている間「ゴソ」は、家(うち)で留守番をしています。・・・」

▼お爺ちゃんお婆ちゃんの家(うち)の物置の戸を開ける音 ガラガラ  
▼お爺ちゃん お婆ちゃん、畑で収穫したものは物置にしまっておくとしよう。そうですね。

「お爺ちゃんとお婆ちゃんは収穫したものを物置にしまってから自宅の玄関に向かうのです。」

▼お爺ちゃんお婆ちゃんの家(うち)の玄関の戸を開ける音 ガラガラガラ

▼コソ ニヤオー(お爺ちゃんお婆ちゃんお帰りなさいの声。)

▼お爺ちゃん 「コソ」今帰ったよ。

▼お婆ちゃん 留守番ありがとうね。...

「今日はトシちゃんユウちゃんがお昼ご飯を食べに来る日です。お婆ちゃんは腕を振るってご飯を作るのです。...」

▼お婆ちゃん

お昼のメニューは、今朝採れたトマトとキュウリのサラダ、トウモロコシも茹でます。マーボウナスとオムライス。ケチャップご飯の中には細かく切ったハム。卵はお婆ちゃんの家(うち)の産みたてを使います。塩シヨウでちよびり味を濃くした玉ねぎとにんじんのコンソメスープ。以上五品です。...そうそう「コソ」には冷(さ)ましたご飯にコンソメスープを少々かけて、その上に細かく切ったハムを乗せます。

「お婆ちゃんは新鮮な食材を使って、早速お昼ご飯を作り始めるのです。」

▼柱時計の音 ボーン...ボーン。

▼お爺ちゃん 十一時になったか。そろそろトシちゃんとユウちゃんがお昼ご飯を食べに来るかな。

▼お婆ちゃん そうですねえ。...噂をすると良く来ると言いますよね。ニヤオー。「コソ」も待っているよ(の声。)

「お爺ちゃんお婆ちゃんがシンちゃんとユウちゃんの話をしていると、二人がやってくるのです。いち早く気づいた「コソ」は玄関まで迎えに行きます。...」

▼トシちゃんユウちゃん

▼コソ ニヤオー、ニヤオー(トシちゃんユウちゃん、こんにちはの声。)

「トシちゃんとユウちゃんは二人で「コソ」の顎(あご)の下と背中を、撫(な)でてあげます。...「コソ」はリラックスしたのか、気持ち良さそうに、あくびをすることでした。アーン。そして「コソ」とトシちゃんとユウちゃんは居間(いま)に向かうのです。」

▼トシちゃん お爺ちゃんお婆ちゃんこんにちは。

▼ユウちゃん こんにちは、遊びに来たよ。

▼お爺ちゃん 二人とも良く遊びに来てくれたね。

▼お婆ちゃん ゆっくりしててね。もうすぐ十二時ですね。お昼ご飯にしましょうか。

▼お爺ちゃん お昼ご飯にしよう。ハイ。ハイ。

「お婆ちゃんが腕を振るった料理が「ちゃぶ台(円形で短い四本脚の食卓用のテーブルのこと)」の上に並ぶのです。」

ここまで読んで頂きありがとうございます。前編はこれで終わります。少し休憩しましょう。後編を楽しみにしてください。

▼お爺ちゃん お婆ちゃんが二人のために作った料理だよ。いただくでしょう。今年のトウモロコシは甘くて美味しいね。ほかの野菜の出来も良いね。

▼トシちゃんユウちゃん お爺ちゃんお婆ちゃんいただきます。いただきます。

▼コゾ ニヤオー、ニヤオー(いただきますの声。)

▼トシちゃん 僕はマーボウナスが美味しい。ちよつと大人になった気がするね！モグモグ、モグモグ。

▼ユウちゃん お兄ちゃん！オムライス、これ最高に美味しいよ。モグモグ、モグモグ。

▼コゾ ニヤオー(美味しいニヤオーの声。)

▼お婆ちゃん どれもお代わり出来るよ。お代わりしてね。：

▼ユウちゃん オムライスお代わりしたいんだけど、一皿は食べられないわ。

▼トシちゃん ユウちゃん！兄ちゃんと半分ずつ食べない？兄ちゃんそれで良いの？。お婆ちゃん！兄ちゃんに僕に半分ずつください。：モグモグ、モグモグ。

▼コゾ ニヤオー(仲が良い兄弟だニヤオーの声。)

「お爺ちゃんお婆ちゃん、トシちゃんユウちゃんと「コゾ」は、楽しく美味しくお昼ご飯を食べるのでした。・・・」

▼お爺ちゃんお婆ちゃん 「ちよつとさまでした。お婆ちゃん美味しかった！ほんとに美味しかったよ！

ニヤオー(美味しかったニヤオーの声。):

▼トシちゃんユウちゃん お婆ちゃん後片付け手伝うよ！

「トシちゃんとユウちゃんは、自分の家(うち)で後片付けをしているので、上手に片付けるのです。そして、みんなはお腹がいっぱいになったので昼寝をします。・・・」

▼柱時計の音 ボーン・ボーン。

▼ユウちゃん お兄ちゃん四時になったよ。そろそろ家(うち)に帰る？：ユウちゃん帰ろうか！・・・

▼お爺ちゃんお婆ちゃん 二人ともせつかく来たんだから、もう少し遊んでいったら。

▼トシちゃんユウちゃん お爺ちゃんお婆ちゃんまた遊びに来るよ。今日は帰るね。

「トシちゃんとユウちゃんは、お爺ちゃんお婆ちゃんにお昼ご飯をご馳走になったお礼を言って家路(いえじ)につくのです。・・・帰る途中の二人の会話。」

▼ユウちゃん 「コゾ」って、僕たちが遊びに行くと、いつも玄関まで迎えに来てくれるよね。うれしいね。

お兄ちゃん「コゾ」って何歳か知ってる？

▼トシちゃん お婆ちゃんが十三歳って言ってたよ。人間の年齢にすると六十八歳ぐらいだって。

▼トシちゃんユウちゃん 「コゾ」もお爺ちゃんお婆ちゃんと一緒に長生きして欲しいね。：家に到着。

▼僕たちの家(うち)の玄関の戸を開ける音 ガラガラガラ、ただ今。帰ったよ。お帰りなさい。：

「トシちゃんとユウちゃんの夏休みが終わり、一ヶ月が経ちます。早いもので季節は秋です。月がとても綺麗な夜でした。・・・「コゾ」は、ひどい怪我をして家に帰ってきました。犬か猫とケンカをしたのでしよう。両耳と頬、脚としっぽのあちこちを噛まれ出血していました。」

▼お婆ちゃん 「コゾ」お帰り。・・・「コゾ」どうしたの？。ひどい怪我、大変！ 大変！

「お婆ちゃんは「コゾ」の傷口を消毒してあげます。・・・そして「コゾ」がいつも寝る場所にタオルを二枚重ねてあげると、その場所で「コゾ」は静かに体を休めるのです。・・・そして翌朝。」

▼お婆ちゃん 「コゾ」おはよう。あちこちかまれて出血していたけど、出血は止まったね。まずは一安心。

▼コゾ まだ傷口は痛むだろうね。・・・早く痛みが消えると良いね。しばらく消毒はしておこう。

ニヤーン(消毒をお願いしますの声。)

「コソ」が怪我をしてから一週間が経ちます。今日は日曜日。お爺ちゃんお婆ちゃんがトシちゃんユウちゃんの話をしていると、二人が遊びにやって来ました。「コソ」はいつものように玄関まで迎えに行きます。・・・」

▼**コソ** ニヤオー、ニヤオー(シンちゃんユウちゃん、こんにちはの声。)

▼**トシちゃん** 「コソ」の迎えだー！：あっちうち怪我したんだね。

▼**ユウちゃん** お兄ちゃん「コソ」痩せていない？ それに鳴き声も小さいね。そうだね。・・・

「トシちゃんとユウちゃんが家(うち)にあがると「コソ」が近寄ってきて、僕たちの足下に自分の体をこすりつけてくるのでした。「コソ」が僕たちに初めてしてくれたことでした。・・・」

▼**コソ** ニヤーン、ニヤーン、ニヤーン、ニヤーン(長い間、可愛がつてくれてありがとうの声。)・・・

▼**トシちゃんユウちゃん** お爺ちゃんお婆ちゃんこんにちは。「コソ」痩せたね。

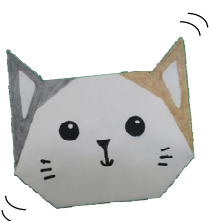
▼**お爺ちゃんお婆ちゃん** 傷口は良くなってきたんだけど。・・・「コソ」が噛まれた時、バイ菌が入っちゃって体調が良くないのかなあ。「飯も以前のように食べないから、痩せちゃったね。・・・

「その日の翌日から、「コソ」がお婆ちゃんの家(うち)に戻ってくることはありませんでした。」

▼**トシちゃんユウちゃん** お爺ちゃんとお婆ちゃんこんにちは。「コソ」いなくなっちゃったんだって！

▼**お婆ちゃん** 「コソ」いなくなっちゃったの。・・・猫は、体が弱って死が近づいてくると、いつもと違う甘え方をしたり、お別れのあいさつをするためによく泣いたりして、何処かに姿を消してしまうんだよ。・・・そう言えば、お婆ちゃんあつたんだよ！ ねえお兄ちゃん。ユウちゃんあつたよね。

「コソ」の行方が分からなくなってしばらくすると、お婆ちゃんは自分の家(うち)の仏壇の隣に、小さな仏壇とその中に「コソ」と書かれた位牌(いはい)が置かれていました。」



▼**トシちゃんユウちゃん** 小さな仏壇と位牌だれが作ったの？

▼**お婆ちゃん** お爺ちゃんとお婆ちゃんの二人で作ったんだよ。

「お婆ちゃんが僕たちに「コソ」の昔話をしてくれました。・・・新年にももらった子猫の名前を、去年以上に良い年となるよう願って「コソ(去年)」と名付けたの。子猫の頃は、私が寝ていると顔をペロンとなめたのよ。可愛かった。畑で腰を痛めて歩けない時に、「コソ」は急いでお爺ちゃんをよんできてくれて、やっとの思いで家(うち)に帰ったこともあったわね。お昼ご飯の支度中、包丁で指を切った時、「コソ」は救急袋をくわえて持ってきてくれたこともあったのよ。など懐かしそうに話してくれました。・・・その時お婆ちゃんは、目にいっぱい涙を浮かべていました。そしてお婆ちゃんとシンちゃんユウちゃんの三人で「コソ」にお線香をあげ、手を合わせるのでした。・・・「コソ」天国に行っても元気だいてね。・・・たまには、お婆ちゃんの夢の中に遊びに来てね。僕(シンちゃん)とユウちゃんも遊びに行くからね。・・・」